

## ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニホンザル」(NBR)のあゆみ

### 発足の背景

従来、研究用のニホンザルは、有害鳥獣駆除された個体や動物園の余剰動物が供給源となり入手されてきたが、野生動物の利用は乱獲につながるという批判が高まり、平成11年、第8次鳥獣保護事業計画の改正以降、ニホンザルの入手が困難になる。

### 平成13(2001)年

日本生理学会、日本神経科学学会、日本霊長類学会、それぞれに研究用サルの繁殖施設設置の要望書を作成し、文部科学省の関連部局、日本学術会議、総合科学技術会議に合同で提出する

### 【NBRP 第一期】

#### 平成14(2002)年度

フィージビリティ・スタディとして文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクトに採択される

〈繁殖〉・繁殖群形成を開始

〈調査〉・全国(大阪、札幌、仙台、東京、名古屋、福岡)で需要動向調査(計7回)  
→この調査結果をもとに、第1期の体制を提言。

- ・年間300頭の提供体制の実現と複数の繁殖施設の必要性(感染事故等のリスク分散と繁殖数達成の為)
- ・霊長研は、RRS計画(放飼場建設)を推進しNBRと協力へ

#### 平成15(2003)年度

ナショナルバイオリソース「マカクザル」(MBR)として正式開始

(京都大学霊長類研究所が協力機関として参加)

〈繁殖〉・円山動物園からの譲渡をめぐる住民監査請求と譲渡差し止め請求住民訴訟

〈広報〉・第1回公開シンポジウム

「ニホンザルの実験利用問題と繁殖供給センター構想」

(11/23、犬山、約80名参加)



- ・第2回公開シンポジウム「ニホンザルの研究利用と繁殖センター構想」  
(3/7、東京、約90名参加)
- ・パンフレット(第1版)、
- ・MBRニューズレターVol.1 no.1発行、
- ・ホームページ公開など



### 平成16(2004)年度

ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニホンザル」(NBR)に名称変更

〈繁殖〉・円山動物園の住民訴訟は、原告の上告受理申し立てが棄却され、司法の判断が確定

〈調査〉・「ニホンザルの研究利用に関する研究者の意識調査」

(9月、第27回日本神経科学大会)

- ・ニホンザルを用いた研究の動向

— Journal of Neurophysiology (1950~2003) 調査

〈広報〉・第3回公開シンポジウム「ニホンザルの研究利用とその将来像」

(10/1、東京、約90名参加)



- ・国立大学動物実験施設協議会や公私立大学実験動物施設協議会と意見交換
- ・Dr. Matfield (Research Defense Society) 招聘講演(6月)
- ・第2回公開シンポジウム講演収録集発行
- ・パンフレット第2版、NBRニューズレターVol.1 no.2~3発行 など

## 平成 17(2005)年度

### 運営体制の強化

「ニホンザル」バイオリソース運営委員会が生理学研究所の委員会として発足  
〈繁殖〉・RRS 計画が遅れ、飼育環境維持のため母群導入を一時停止

- ・「ニホンザルの飼育管理及び使用に関する指針」と募集要項を策定

〈提供〉・事前講習会開催 第1回(11/25、東京、41名参加)、  
第2回(12/1、大阪、40名参加)

- ・「研究用ニホンザルの供給の試行」募集開始(2006/3/31～)

〈調査〉・「研究者が、研究用ニホンザルに求める条件について」  
(第28回日本神経科学大会、7月)

- ・サルを用いた研究の動向調査 文献データベース PrimateLit より

〈広報〉・第4回公開シンポジウム

「4年目のナショナルバイオリソース  
プロジェクト『ニホンザル』～その成果  
とこれから～」

(9/30、東京、101名参加)

- ・NBRニュースレター  
Vol. 2no. 1～3 発行 など



## 平成 18(2006)年度

### 第2期NBRPへ向けて準備

〈繁殖〉・RRS 第1期工事完成(H18年3月末)

- ・繁殖・育成事業が順調に進展し、提供用の育成ザルの年齢層が充実

〈提供〉・初の提供事業「研究用ニホンザルの供給の試行」実施

- ・事前講習会 第3回(7/18、京都、85名参加)、  
第4回(8/31、東京、53名参加)



〈広報〉・第5回公開シンポジウム「ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニホンザル」～将来へ向けて、5年間のあゆみ」(2/2、東京、144名参加)

- ・NBR ニュースレターVol. 3 no. 1～no. 2 発行
- ・ニホンザル Resource of Japanese Monkey (生物の科学『遺伝』60巻5号 p 30～31)
- ・「ニホンザル」バイオリソースプロジェクトの現況と今後の展望 (細胞工学 26巻、1号、p 80～82)
- ・展示：日本実験動物学会総会 (5月、神戸)、国際生化学・分子生物学会 (6月、京都)、遺伝学会 (9月、つくば、一般公開)、分子生物学会 (12月、名古屋)



## 【第二期】

### 平成 19(2007)年度

運営体制の強化と提供事業の推進、NBR 事業推進室新設

〈繁殖〉・RRS での繁殖事業本格化

〈提供〉・「平成 19 年度研究用ニホンザルの供給 (試行)」実施

- ・事前講習会 第 5 回 (9/9、横浜、43 名参加)

〈広報〉・NBR ニュースレターVol. 4 no. 1 発行

- ・特集：ナショナルバイオリソースプロジェクト NBR「ニホンザル」バイオリソース (アニテックス 3月号 Vol. 20 No. 2 p15～28)

- ・展示：NBRP キックオフシンポジウム (3/10、東京)、日本分子生物学会・日本生化学会合同大会 (12月、横浜)

### 平成 20(2008)年度

提供事業本格化・霊長研 RRS から初めての提供

〈繁殖〉・繁殖効率の上昇、死亡率低下を目指し 診療施設の拡充

- ・血液学・血液生化学検査・記録室設置



- 〈提供〉・「平成 20 年度研究用ニホンザルの供給」実施
  - ・事前講習会 第 6 回 (7/8、東京、49 名参加)
- 〈広報〉・第 6 回公開シンポジウム
  - 「ニホンザルの供給と研究への貢献」(2/28、東京、79 名参加)
  - ・展示：日本霊長類学会 (7 月、東京)
  - 日本動物学会 (9 月、福岡)、
  - 日本分子生物学会・日本生化学会合同大会 (12 月、神戸)
  - など

## 平成 21(2009)年度

委託事業から補助金事業へ

- 〈繁殖〉・分担機関への母群導入完了。
- 〈提供〉・「平成 21 年度研究用ニホンザルの供給」実施
  - ・事前講習会 第 7 回 (7/5、東京、24 名参加)
  - 第 8 回 (7/11、大阪、17 名参加)
- 〈広報〉・自然科学研究機構新分野創生センター・京都大学霊長類研究所合同公開シンポジウム「霊長類の脳科学 将来展望と日本のプレゼンス」(第 7 回共催) (3/20、東京、179 名参加)
  - ・NBR ニュースレターVol. 5 no. 1-2 発行
  - ・ニホンザル 日本の脳科学を支える日本固有の動物種 (細胞工学別冊「バイオリソース&データベース活用術」p171~173)
  - ・Japanese Macaques as Laboratory Animals. ( Experimental Animals Vol. 58 No. 5 p459~469)
  - ・展示：日本実験動物学会 (5 月、大宮)
  - 日本神経科学大会 (9 月、名古屋)
  - 日本実験動物技術者協会総会 (10 月、新潟)、
  - 日本分子生物学会年会 (12 月、横浜) など



## 平成 22(2010)年度

繁殖施設で「ニホンザル血小板減少症」発生が報告され、原因究明・提供個体の安全確保まで提供事業の一旦停止（8月）→再開（11月）

〈提供〉・「平成 22 年度研究用ニホンザルの供給」実施

- ・事前講習会 第 9 回（7/3、東京、29 名参加）  
第 10 回（7/17、大阪、21 名参加）

〈広報〉・合同公開シンポジウム（第 7 回）記録集発行

- ・NBR ニュースレターVol.6 no.1 発行
- ・ユーザーシンポジウム（2/17、東京、62 名参加）
- ・展示：日本実験動物学会（5 月、京都）  
日本生理学会（5 月、盛岡）  
包括型脳科学研究推進支援ネットワーク  
夏のワークショップ（7 月、札幌）  
日本神経科学大会（9 月、神戸）  
日本分子生物学会年会（12 月、神戸） など

## 平成 23(2011)年度

疾病検討委員会設置、自然科学研究機構、京都大学への提供再開

〈提供〉・「平成 23 年度研究用ニホンザルの供給」実施

- ・事前講習会 第 11 回（6/29、犬山、34 名参加）  
第 12 回（7/26、岡崎、11 名参加）  
第 13 回（11/29、岡崎、14 名参加）

〈広報〉・第 8 回公開シンポジウム「ニホンザルバイオリソースプロジェクトー第 2 期の成果と将来展望ー」（12/9、東京、77 名参加）

- ・NBR ニュースレターVol.7 no.1-2 発行
- ・冊子「ニホンザルの感染症について」  
編纂（平成 24 年 4 月発行）
- ・ホームページ改訂
- ・展示：日本実験動物学会（5 月、東京）  
日本霊長類学会（7 月、犬山）  
日本神経科学大会（9 月、横浜）  
日本分子生物学会年会（12 月、横浜）  
平成 23 年度総研大国際シンポジウム（12 月、岡崎） など

